

平成18年度第2回倫理審査委員会報告

○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成18年12月22日（金）

○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部教授
副委員長	増田 瑠司	衛生研究所副所長
委員	小嶋 久子	北里大学医学部助教授
委員	尾坂 郭子	生涯学習インストラクター
委員	今井 光信	衛生研究所所長

○ 審査対象研究課題

平成18年度及び19年度研究課題のうち、検査材等を用いる2研究課題及び疫学調査に関する1研究課題について審査を実施しました。

○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
6	レジオネラ属菌の分子疫学解析法に関する基礎的検討 レジオネラ症の感染源を特定するための分析疫学解析は、主に PFGE 法で行われているが、この方法は日数を要し、煩雑で高価な装置を必要とする。これらを解消するために結核等の分子疫学解析に導入され始めている VNTR 法の利用を試みる。本研究では、レジオネラ属菌への VNTR 法の導入に際して、各種諸条件等の基礎的検討を行い、併せて従来法の PFGE 法との比較を行う。	承認
7	散発下痢症患者便から効率的に病原菌を検出するためのリアルタイム PCR の検討 散発下痢症患者便から病原菌を検索し、検出された菌の情報を集積することは、集団発生の予測や疾病の治療および下痢症の予防対策の策定等に活用できる。本研究では、食中毒等感染症の集団発生時の対策に役立てるため、散発下痢症患者便から直接、病原菌であるカンピロバクターの遺伝子を検出し、迅速に菌をスクリーニングするリアルタイム PCR 法の有用性を検証し、病原菌の	承認

	検出率を上げる手法の確立を目指す。	
8	<p>入浴施設に関連したレジオネラ症の発生に関わる汚染菌濃度の調査</p> <p>入浴施設におけるレジオネラ属菌等の増殖を抑える管理方法の構築を目指すため、泉質に対応した衛生管理状況の現状分析、微生物学的・化学的汚染と使用実態との関係の把握、科学的データに基づいた構造設備や管理方法の有効性の評価に関する研究を行う。そこで、入浴施設に関する各種情報を把握している全国の地方衛生研究所を対象にしてアンケート調査を行い、入浴者数、湯の入れ替え頻度、微生物の生息状況、消毒法、汚染指標及び泉質の調査等を行うとともに、入浴施設に関連したレジオネラ症の発生に関与した要因の把握と解析を行う。</p>	承認